

(表現)

★環境の構成 ○幼児の姿 △保育者の援助 ▲保育者の読み取り

### <色水で遊ぼう> 3歳児Ⅱ期 (6~7月頃)

**ねらい** ○色の美しさを感じながら水に関わって遊ぶことを喜び  
○水の心地よさを感じながら遊ぶことを楽しむ

10の姿

\*豊かな感性と表現 \*思考力の芽生え

#### 遊びが始まったきっかけ

好きな遊びの時間に園庭で、色水遊びをする幼児がいる。最初は、5歳児の担任が設えていた色水に興味を持ったA児が、色水に興味を持ち、姉(5歳児)と一緒に遊ぶ姿が見られた。他児も、興味を持ち始めた為、3歳児の保育室の近くに3歳児の発達に応じた色水遊びや泡遊びの場を設えることにした。

#### 遊びの経過

おねえちゃんみたいに あそんでみたいな



きょうも あ〜そば!



これのほうが いれやすいなあ



知識及び技能の基礎  
【気付き、発見】

- ★色水(3色)、ペットボトル、カップ、ヤクルト容器、じょうご、おたま、固形洗剤のスプーンを設える。
- A児は、3歳児保育室前の色水遊びの場で遊び始める。他児も、興味を持ち、ペットボトルに色水を入れたり、色を混ぜたりすることを楽しんでいる。
- △一人ひとりが存分に色水に関わって遊ぶことができるようなものの数を準備したり、色水を補充したりする。
- ▲色水に関わりながら遊ぶことで、水に触れることの心地よさを感じている。水をカップに入れたり、水に移したりすることを楽しんでいる。色が付いていることによって、興味をより引き出したのではないか。

- 毎日継続して、遊ぼうとする幼児の姿が見られる。繰り返し遊ぶことによって、最初は5歳児が使っているおたまに慣れて使っていたが、おたまより柄の短い固形洗剤のスプーンやヤクルト容器ですくったり、じょうごを使ったりなど、使いやすいものを選び、色水を入れることを楽しむ姿が見られるようになった。
- ▲様々なものに触れながら遊ぶ中で、ものの特性に気付き、扱いやすいものを選ぶようになったのではないか。

まぜると ぴんくになっ



こっちのほうが こいね

思考力・判断力・表現力の基礎  
【試行錯誤、工夫・予測、比較】

どっちも きれいね



ちがう いろだね

学びに向かう力、人間性等  
【色の美しさや変化する面白さ・好奇心・探求心】

- △混ぜても色が濁りにくいような組み合わせの色水を準備する。
- 色が混ざると、色が変わることに気付き、保育者に伝えようとする。また、いろいろな色の色水をつくり、並べる姿が見られるようになる。
- ▲混ぜることで、どんどん色が変化していくことの楽しさを感じ、いろいろな色の色水ができることを喜んでいるのではないか。

- つくった色水を保育者に見せたり、友だちと比べたりする姿が見られる。また、色水をジュースに見立てて遊ぼうとする姿も見られるようになる。
- ▲“自分でつくったもの”を見てほしいという思いを持ち始め、保育者や友だちとかかわろうとする姿につながったのではないか。

#### なぜ子どもの育ちや学びにつながったのか?

- ・十分な量のものがあったり、保育者が近くにいたりすることで安心して過ごせる場があった。一人ひとりのペースが保障されており、遊びの楽しさを見つけられた。
- ・楽しさを感じることで、繰り返し遊ぶ姿が見られ、その中で、ものの特性に気付き、また次の楽しさを感じる事ができた。

#### 考察

##### なぜ遊びが充実したのか?

1. 安心して遊べる場の雰囲気
2. 水の心地よさ
3. 色の変化
4. 十分に遊ぶことができる時間
5. 3歳児の発達にあった様々な道具

(表現)

★環境の構成 ○幼児の姿 △保育者の援助 ▲保育者の読み取り

## 〈ぱくぱく人形作り〉3歳児 Ⅲ期 (9・10月)

10の姿

- \*自立心 \*協同性 \*思考力の芽生え
- \*言葉による伝え合い \*豊かな感性と表現
- \*社会生活との関わり

ねらい

- ・作った人形で口をパクパク動かして遊ぶことを楽しむ
- ・人形を使って友だちとお喋りしたり、かかわったりすることを楽しむ

こんにちは、一緒に遊ぼう！

何して遊ぶ？

一斉保育の制作活動の一場面



少し前から園のパペット人形を使って遊ぶ子どもの姿がある。  
 パペット人形を使うことで子どもどうしの言葉のやり取りが  
 増えている姿にヒントを得て一斉保育に取り入れた。

どんな食べ物が好き？

パクパク  
楽しいね

### 知識及び技能の基礎(制作過程)

### 思考力・判断力・表現力の基礎(遊びと試み)

- ★保育者が見本を作って保育室に飾っておく
- 紙コップに手を入れて口が動くことに興味を持つ
- ★4人～6人のグループで友だちとのかかわりを持ちながら作れるように環境づくりをする
- 友だちと会話を楽しみながら制作に取り組む
- △保育者が人形を使って子どもとかわる
- ★いつでも人形を使えるように自己管理にする

- 口をパクパクさせながら喋ることが楽しい
- 友だちにどうやってかかわればいいのか分からず話しかけられるのを待っている子がいる
- △人形で子どもに話しかけると子どもも人形を使って話しかけてくる
- できた人形の口を動かし友だちと会話を楽しむ
- 人形を使うことで自然と友だちに話すことができる
- ▲子どもが何を楽しんでいるか、どのように人形を使い、友だちとかわっているのかを観察する
- △相手の思いに気付いたり、受け入れたりして楽しさを共感できるようにかわる
- 自分の人形になりきって自由な表現を楽しむ
- △子どもなりの思いが出せるように共感・代弁したりする

### 学びに向かう力(工夫と発展)

- ▲自分で作ることで遊びの満足感や嬉しさを得た
- 人形を大切に扱おうとする
- おままごとコーナーに持ち寄ったり、朝の会で一緒に人形の口をパクパクしたりして歌を歌った
- ▲人形を通して子どもどうしのかかわりや言葉のやり取りが活発になった

### 考察

#### なぜ遊びが充実したのか？

1. 内容 (簡単に作ることができる、扱いやすい)
2. 材料 (手に入りやすい)
3. 時間 (自由時間にいつでも遊ぶことができる)

#### なぜ子どもの育ちや学びにつながったのか？

1. 自由な表現、友だちとのかかわりを楽しんだ  
相手の思いに気付く・受け止める  
また自分の思いを言葉で伝えることができた
2. 育ちを具体的に言葉にして伝えたこと  
「(友だちと)お話すって楽しいね」  
「言葉で伝えるって大切だね」

(表現)

〈段ボールで遊ぼう〉4歳児Ⅲ期(9月~12月)

ねらい

- ・段ボールを使って自分のイメージしたものを工夫しながら作る
- ・友だちと協力して作っていく楽しさを知る

段ボール製作週間三日目の一場面

段ボールで机を作ろうとするA児がいた。グラグラしてうまく立たないので困っていた。そこにB児が来て、一緒にガムテープを貼り固定しようとするが、うまくいかない。保育者は、子どもたちでどのように考え、工夫していくのか様子を見守ることにした。

遊びの経過

どうしたらちゃんと立つかな？

下を固定したらいけるかも！

① 知識及び技能の基礎【気付く】

② 思考力・判断力・表現力の基礎【工夫する・試す】

★制作活動が四日間連続して行えるように環境づくりをする。  
 ★ガムテープ、段ボールカッター、はさみなどの用具も自由に使えるよう準備しておく。  
 ○A児は机を作ろうとするがグラグラして固定することができず困っている。そこへB児がやってくる。  
 △B児にA児が固定できずに困っていることをさりげなく伝える。  
 ▲製作活動に積極的なB児と一緒に取り組むことで、自分たちで考えたり、工夫したりしながら活動できるのではないかと考える。

○A児とB児は天板をつけると固定するのではと考え、ガムテープを貼っていく。  
 ○しかし、まだ足元がぐらつくので、次は足元にガムテープを頑丈に貼っていった。それでも不安定なので、二人で悩む。  
 △箱になっている段ボールを見せて「これはグラグラしないね。どうしてかな？」と声を掛けた。  
 ○それを聞いたB児がひらめいたように、小さく切った段ボールを折り曲げて、足元に固定し始めた。

③ 学びに向かう力・人間性等【目的の共有・協力】

○まわりで遊んでいた幼児たちが集まり、作った机の上に料理を並べ、ごっこ遊びが始まる。  
 △友だちと協力してできたこと、諦めないで自分たちで完成したことを他児に紹介し、A児B児の達成感を育てる。

これ、一緒に作ってんで！

みんなでパーティーしようよ！

○A児とB児は、協力して足元を固定し始めた。  
 ○安定してきたことに二人で喜び、さらに頑丈にしていく。  
 ▲自分たちだけでできたという喜びでさらに活動が勢いになってきたと考える。

考察

なぜ遊びが充実したのか？

1. 時間の確保(1.5時間×4日間)  
※子どもが繰り返し遊べる時間の確保
2. 材料の確保(大量の段ボールと廃材)
3. 場所の確保(一部屋製作のため貸し切り)
4. 自由に用具が使える環境(ハサミ、ガムテープ、段ボールカッターなど)

なぜ子どもの育ちや学びにつながったのか？

1. 子どもが夢中になって遊ぶ中で「気付く」「試す」「失敗する」「工夫する」が十分できたこと
2. 育ちを具体的に言葉にして伝えたこと  
「諦めないで取り組むこと」  
「友だちと協力する大切さ」

★環境の構成 ○幼児の姿

△保育者の援助 ▲保育者の読み取り

10の姿

- \*自立心 \*協同性 \*思考力の芽生え
- \*言葉による伝え合い\*豊かな感性と表現

(表現)

「体を動かそう」表現遊び 5歳Ⅱ期(6月～7月)

ねらい・・・体を動かす遊びを楽しみながら

体の仕組みや部位を知る

場面・・・体に関する遊びの活動が始まり、子どもたちが

興味を持ち始め、いろいろな遊びに展開していくところ

★環境の構成 ○幼児の姿 △保育者の援助 ▲保育者の読み取り

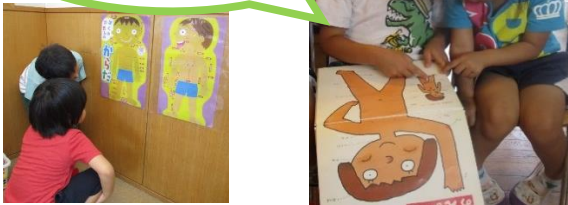
10の姿

- ・健康な心と体 ・協同性 ・思考力の芽生え
- ・道徳性・規範意識の芽生え
- ・言葉による伝え合い ・豊かな感性と表現

①体に興味を持つ(知識及び技能の基礎)

「体ってどうなってるの?」「ここなんていう名前?」

ここは  
「ふくらはぎ」  
って言うんだって



- ★体に関する絵本を置いてコーナーを作る
- 絵や絵本を見て体のことや細かい部位にも興味を持つ
- ▲子どもたちが体について興味を持ち、会話していることに耳を傾ける

②ポーズや動きを真似て自分の体を動かす(思考力・判断力・表現力等の基礎)

「こんなことできるかな?」



ポーズ君と  
同じポーズ  
できるかな?

- ★厚紙で関節を動かせる人形を作る
- △子どもたちが次第に真似て体を動かしてみたいと興味を持てるよう、いろいろなポーズを人形で表現していく
- ポーズを真似ながら表情もイメージし、表現したり言葉で伝え合ったりする
- ▲視覚から興味を持ち、自然と体が動き出し前進で表現する楽しさを感じている

③集団遊びや自由遊びの時、子どもたちでルールを決め、体を使って表現したり、体の部位が会話の中で出たりする(学びに向かう力・人間性等)

「氷鬼やろう!」「ツイスターゲームしよう」



- ★それぞれの遊びに合った場所を提供する
- ★体を動かす・体に関するもの等、遊びが選べるよう用意しておく

このポーズは  
どう?

右手は  
ここ?



タッチされたら  
このポーズ



お尻がつき  
そうだよ～

- 考えたポーズを伝え合い、鬼ごっこをしながら表現することを楽しむ
- △子どもたちの話し合いを見守る
- 自分たちで遊びを選び、体を使って楽しみながら部位の言葉が会話の中に出てくる
- △新しい遊びはルールを守る大切さを伝える
- ルールを守ることで友だちと楽しく遊べることを知る
- ▲体の部位が分かり、体を動かしているいろいろな遊びを経験していくうちに子どもたちでルールを考え、遊ぶ姿が見られるようになった



両手を上げて  
ばんざいの  
ポーズを  
しているね

- 考えたポーズを描いたり友だちが描いたりしたものを見て共有する
- どう描いたらいいのか難しいところは、保育者や友だちと相談しながら仕上げる
- △描くのが苦手・戸惑っている子には、そばにつき不安を安心へと繋げていく
- できあがった絵を見て真似る

【なぜ遊びが充実したか】

- ・保育者も一緒に楽しむ
- ・環境・準備物は早い段階で計画を立て準備する
- ・体に興味を持てるよう見たり触れたりできるものを用意し、次々と遊びを展開していく

【なぜ子どもの育ちや学びにつながったのか】

- ・いろいろな活動の中で表現遊びをし、体や細かな部位に気付いたり興味を持ったりした
- ・表現することを考えたり思いを伝え合い受け入れてもらえたりしたことが自信となり、子どもどうして話し合い、遊びが広がった